



みどりの風

平成27年2月2日発行
校報 第516号
(みどりの風 第59号)
練馬区立関町北小学校

好奇心・冒険心・匠の心、そして貢献心

- 「子ども・宇宙・未来の会」名誉会長 的川 泰宣 先生のご講演より -

校長 大野 泰弘

本校は、練馬区内で唯一「子ども・宇宙・未来の会」の「宇宙の学校」を行っている学校です。今年度で3年目を迎えています。この「宇宙の学校」の創始者で、我が国の「宇宙教育の父」とも呼ばれている、JAXA(宇宙航空研究開発機構)名誉教授、JAXA 宇宙教育センター初代センター長等、数々の重責を担われている、的川 泰宣 先生に道徳授業地区公開講座の折りにお越しいただき、ご講演を賜りました。

当日は「21世紀を生きる子どもたちへ」という演題で、50分間ほどお話くださいました。宇宙のことというよりも、これからの変化の激しい時代を生き抜いていかなばならない子どもたちに対する温かいメッセージでしたので、保護者や地域の皆様にも、この紙面を通してお伝えいたします。〔*一部略〕

私は、50年以上宇宙関係の仕事をしていますが、今から20～30年後には宇宙に楽に行ける時代が来ると思います。その宇宙の仕事をしている人の心を見てみますと、子どものころに「太陽系はどうやってできたのだろう」といった興味や関心をもっていただよに感じられます。小学生になるかならないかといったところに、その心に種ができていたのでしょう。

宇宙探索の心には、3つの色があると思います。一つ目は、太陽系に関心があつた人は、ほかの星も調べてみようという「究めたい」、「知りたい」という心をもっているということです。心に灯りをつけるには、いつも夢や「好奇心」が必要です。

二つ目に、太陽系の起源には興味はないけれど、太陽系の惑星などに行くにはどうすればよいか、「行ってみたい」、「冒険してみたい」という心をもつた人たちが登場してきます。子どもの心を前方に推進していくのは、この「冒険心」です。

そして、三つ目。「究めたい」、「行ってみたい」という人たちだけが集まっても、宇宙には行けません。宇宙飛行士が何千人集まってもロケットはつくれません。工場がなければ、ロケットはできないのです。そこで「創る人」が出てきます。太陽系の起源も、全体計画もどうでもよい。頼まれた物を責任をもってしっかり創り上げる「匠の心」をもつた人たちが必要なのです。「創りたい」という心をもつた人がいてはじめて、「好奇心」も「冒険心」も実現することができるのです。

私は、どの子も、この3つの心につながる何かをもっていると思っています。この3つの心はそれぞれ違いますが、違うからこそチームを組むとよいのです。そうすると、大きなプロジェクトができるのです。同じ人ばかり集まってもできません。はやぶさの1号機は、5000人のタイプの違う人たちがチームを作って実現したプロジェクトです。私は、その過程で、日本のものづくりのすばらしさを実感できましたし、適度な貧しさが未来への高い志を生み出していたようにも感じられました。経費がなかったから、大企業に頼むのではなく、近所の工場150社くらいに頼みました。はやぶさがピンチになった時には、自分たちでどうやったら乗り越えられるか、苦労してみんなで考えることができました。

ある日、はやぶさが宛てに、「あすかちゃん」という女の子から手紙が来ました。最初はどこの学校の子か分からず、「幻のあすかちゃん」ということで、管制室の入口にその手紙を貼って、私たちは元気をもらっていました。その子は結局JAXAの近くの学校の子と分かりました。将来は「宇宙の仕事をやりたい」と言っています。このあすかちゃんのように、幼いころの共感と感動が、その子の未来を創るのです。子ども時代です。大学受験のころでは遅いのです。

「三つ子の魂、百まで」と言われますが、科学の知識や方法は、成長してからでも身に付きますが、科学の心は、子ども時代に生まれます。そのセンスを磨くことが大事です。「究めたい心〔好奇心〕」、「挑みたい心〔冒険心〕」、「創りたい心〔匠の心〕」は、宇宙関係だけでなく、どの仕事にも言えることです。そして、「人の役に立ちたい心〔貢献心〕」をこれらに合わせることで、生命を輝かせることにつながります。

今日、はやぶさが帰還した翌年に起こつた東日本大震災後、この「貢献心」をもつた人たちが確実に増えています。これからは、宇宙から地球を見つめる時代であり、宇宙的な視野で物事を考えていくことが大切になります。現在、はやぶさ2が宇宙を旅しています。皆さんは、星を舞台にして生きる世代なのです。

最後になりますが、ジュール・ヴェルヌの言葉と言われている一節を紹介します。「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる。」

この的川先生のお話を心に刻みながら、より広い視野から子どもたちの心を育て、夢と希望のある将来につなげていきたいと思っています。